



TITLE:

米價調節ノ根本策(一)

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 米價調節ノ根本策(一). 經濟論叢 1918, 7(5): 668-683

ISSUE DATE:

1918-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127452>

RIGHT:

米價調節ノ根本策(一)

戸田 海市

一 根本ノ調節方針

國民ノ主要食物タル米ニ對スル政策ハ二ツノ重大ナル目的ヲ有スル。第一ハ成ルヘク國民ノ嗜好ニ適スル米ノ生産費ヲ減シ、以テ其生産ニ不利ヲ與フルコトナクシテ消費者ニ低廉ノ米ヲ充分ニ供給スルコトアル。歐米諸國民ハ我國ニ比シテ一體ニ低廉ナル食物ヲ消費スルノ幸福ヲ有シ、其ノ主要食物タル小麥ノ如キモ、平時ニ於ケル價格ハ千八百七十年代ニ比スレハ殆ント半額ニ止マリ、英國ノ如ク自由貿易政策ヲ採レル國ニ於テハ小麥一石カ十圓近クノ廉價テアリ、他ノ農業保護貿易ヲ行ヘル諸國ニ於テモ概ネ我國ノ米ヨリハ低廉ナル小麥ヲ消費シテ居ル。後進ノ我國カ高價ノ食物ヲ消費シテ居テハ、世界經濟上ノ競争ニ堪ユルコトカ困難テアル。第二ノ目的ハ米價ヲシテ成ルヘク變動ヲ生セサシムルコトデアル。此事カ生産者消費者ノ双方ニ取ツテ必要ナルハ多言ヲ要シナイガ、歐米人ノ主要食物タル小麥ハ世界的商品テアツテ、世界各地ノ收穫ノ不作力互ニ平均スル機會ノ多キ爲メ、其價格ノ年々ノ變動モ概テ一割以內ニ止マツテ居ル。然ルニ我國ノ米價ハ近來五割以上ノ激變ヲ繰返シ、而モ其騰貴及下落カ必シモ年々ノ收穫ノ大小ニ比例セシテ頑強ナル隋勢ヲ示シ、所謂高直三年低直三年ノ狀ヲ呈シテ飽クマテ消費者又ハ生産者ヲ

苦シメテ止マヌ有様ナル。主要食物ニ於ケル此ノ如キ大變動ヲ防止シナクテハ到底國民經濟ハ發達スルヲ得ナイ。而シテ米價政策ニ於ケル此ノ二大目的ヲ達スル爲メニハ、其生産供給ト其取引配給トノ兩方面ニ對シテ改善ヲ施コサテハナラヌ。

人口稠密ノ舊開國タル歐洲先進諸國カ此ノ如ク低廉ナル食物ヲ消費シ得ル所以モ、又其價格カ微小ノ變動ヲ爲スニ過キスシテ生活ノ安固ヲ保テ得ル所以モ、此等諸國ニ於ケル内地農業カ大ニ進歩シテ其生産費カ時勢ノ進歩ト共ニ減少シタカラテナク、又其農業ノ進歩ニ由リ年々ノ氣候ノ變動ニ打勝ツテ平均ノ收穫ヲ得ルカ爲メテナク、主トシテ白人カ其嗜好スル食物ノ生産ニ適スル地球ノ面積ヲ汎ク利用シ、特ニ汎ク世界各地ニ植民シテ之ヲ開拓シタ爲メナル。又此等ノ先進諸國カ今日ノ如ク偉大ナル商工業上ノ進歩ヲ爲シ得タル所以モ、亦實ニ彼等カ一面ニ汎ク世界ニ植民シテ低廉ナル食物原料ヲ豊富ニ輸入シ得ルカ爲メナル。若シモ此等ノ諸國カ各自ニ其食物ノ主ナル部分ヲ國內ニ生産スルノ方針ヲ採ツタナラハ、決シテ今日ノ如ク偉大ナル進歩ヲ爲スコトハ出來ナイ。固ヨリ此等諸國ノ一ツ一ツ、就中英國ニ付テ云ヘハ過度ニ商工業ニ偏シテ國內ノ農業ヲ閑却シタルノ弊アリト云ヒ得ヘキモ、大體ニ於テ歐洲先進國ノ經濟ノ進歩ヲ可能ナラシメタル原因ノ一半ハ、汎ク世界ノ面積ヲ利用シテ低廉ノ食物原料ヲ獲得シ、以テ土地生産業ニ附着スル所ノ收穫漸減法則ノ支配ヲ免レ得タ爲メナル。今回ノ戰爭ノ經驗ニ由リ戰後ニハ此等諸國モ相當ニ國內ノ農業維持ニ注意スルコトトナルテアラウガ、併シ彼等ハ到底食物ノ主ナル部分ヲ自給スルカ如キ不經濟ノ政策ヲ採リ得サルコトガ明カナル。假令ヘ今後歐洲先進諸國カ國防ノ

獨立ヲ特別ニ重要視スルノ必要ニ迫ラルル事情が起ルトシテモ、一般産業政策及社會政策上ヨリ食物自給主義ヲ實行スルコトヲ得ナイノテアル。

我國ノ食物政策ヲ立ツルニ方ツテ先ツ決定ヲ要スル根本問題ハ、今後モ成ルヘク自給自足ヲ主トスヘキヤ、將タ出來得ル限リ汎ク諸外國ノ土地ヲ我食物供給地域トシテ利用スヘキヤデアル。自給主義ヲ採ル論者ハ我國ニ於テ今尙ホ米田開拓ノ餘地少ナカラサルコトヲ主張シ、此際國家ノ力ニ由テ大ニ其開拓ヲ獎勵スルコトヲ要求スルノテアル。我國ニ尙ホ開拓ノ餘地アルコトハ既墾地ノ農業ニ改良ヲ加ヘテ其生産費ヲ減スルノ餘地アリト云フト同シ程度位イニ眞理テアラウガ、併シ一方ニ我國ノ人口ガ年々七十餘萬ヲ増加シ、且ツ一人宛ノ米ノ消費量モ幾分増加スルカラ、此ノ需要ノ増加ヲ充タス爲メニ自給主義ヲ行ントスレハ、米ノ生産費カ大ニ増加シテ米價騰貴ノ勢カ非常ニ強クナル。吾人ハ今日既ニ白人ニ比シテ頗フル高價ノ食物ヲ消費シテ居ルノテアルガ、此上更ニ食物ノ騰貴カ年々著シクナルトキハ、我國ノ經濟ハ到底歐米ト競争シテ進歩スルヲ得ナイ。特ニ自給主義ヲ採ルトキハ非常ノ犧牲ヲ拂フテモ從來ノ如キ米價ノ激變ヲ防クコトカ困難テアツテ寧ロ國民一般ノ富力ノ増進ニ伴ヒ其激變モ一層甚シクナル危險カアル。故ニ今後モ内地農業ノ進歩ヲ圖リ、以テ其生産費ヲ減少シ又ハ其増加ヲ防クノ必要ナルハ無論テアルガ、一面ニ我國ハ大ニ外國ノ土地ヲ利用スルコトニ努メ、日本民族カ八千萬トナリ一億トナルモ尙ホ價ノ低廉ニシテ且ツ安定セル食物ヲ獲得シテ世界ノ競争ニ堪ヘ得ルカ如キ狀態ニ達セネハナラヌ。此方針ヲ採ラネハ今後ノ社會問題ヲ解決スルコトモ出來ナイ。

食物自給ニ重キヲ置ク一部ノ論者ノ主張ニ從ヒ、今日劣惡地ノ開墾ヲ不自然ニ獎勵スルトキハ、吾人ハ之ヲ維持スルノ必要ヨリ永久高價ノ食物ヲ消費セネハナラヌコトナル。目下吾人ハ米價暴騰ニ苦シミツツアルモ、後日再ヒ米價カ下落スルニ至レハ、強テ獎勵シタル劣惡開墾地ノ農民カ非常ノ困難ニ陥ルコトヲ豫期セネハナラヌ。此場合ニ開墾ヲ獎勵シタ國家ハ固ヨリ開墾地農民ノ生活ヲ維持スルノ覺悟カナクテハナラヌ。近年我國ハ次第ニ世界ノ工業國トシテ頭角ヲ擡ケ、之カ爲メ工業勞動者トシテ都市ニ吸收セラルル人口カ増加シツツアルガ、同時ニ交通ノ發達及教育ノ普及ニ由リ、田舎ノ下層民モ是マテノ如ク粗衣粗食ニ甘ンシテ其郷土ニ執着スルノ風カ薄ラキ、續々都會ニ移ツテ工業ニ從事セントスルノ勢カアル。特ニ所有地ニ愛着シテ多ク收益ノ大小ヲ問ハス、只管ラ農事ニ熱心スル所ノ自作農民カ衰退シ、其土地カ大地主ニ兼併セラルルト同時ニ其土地ノ耕作ハ小作人ノ手ニ移リツツアルガ、此小作人ナルモノハ土地ノ所有ト云ヘル魔力ヨリ超脱シタ階級テアルカラ、其生産物カ相當ニ高價ヲ保ツテ充分ノ收入ヲ得ルコトカ出來ナクナレハ、忽チ都會ニ移ツテ工業勞動ニ從事スルコトナル。故ニ我國ニ於テ從來ノ程度ノ農業生産ヲ維持スルコトスルモ尙ホ今後ハ勞銀ノ騰貴ノ爲メニ農業生産費ハ次第ニ増加スル。特ニ我國ノ農業ハ極端ニ勞動ノ要素ガ集約的トナツテ居ルガ、米田ノ耕作上之ヲ改良スルコトハ頗フル困難テアルカラ、農事改良ニ非常ノ努力ヲ爲スモ尙ホ其生産費ノ増加ヲ防クコトカ困難テアル。況ンヤ此上更ニ劣惡地ノ開墾ヲ行フテ而モ米ノ生産費ノ増加ヲ防カントスルコトハ殆ント不能ト云フヘキテアル。

我農業ノ生産要素ノ中最モ重キヲ爲ス所ノ勞働ノ價即チ勞銀カ、今後ハ大ニ都鄙平均スルノ勢カ強マリ、從ツテ今日マテ特ニ低カリシ田舎ノ勞銀カ割合急激ニ騰貴シ、其結果農業ノ生産費モ著シク増加スルヲ免レナイ。百姓ハ粗衣粗食ニ甘シシ、一生土ヲ掘ツテ暮ラスノカ當然デアルト云フカ如キ思想ハ到底永ク維持セラレナイ。果シテ然ラハ我農業生産上切迫シタル問題ハ世人ノ普通ニ考ヘル如ク如何ニセハ生産費ヲ増加セスシテ産額ヲ増加スルヲ得ヘキヤト云フコトヨリモ、寧ロ在來ノ産額ヲ維持スルニ付キ如何ニシテ生産費ノ増加ヲ防キ得ヘキヤト云フコトデアル。此問題ヲ解決スル爲メニハ農業ニ關スル技術上、商業取引上及金融上ノ改善ヲ必要トスルト同時に、自作農民ノ維持及小作農民ノ地位ノ向上ト云フ社會政策的改善ヲモ必要トスルモノデアルカラ、生産費ヲ要スルコト大ナル劣惡地ノ開墾ヲ以テ食物自給策ノ重要方法トスルカ如キ思想ハ誤ツテ居ル。又既墾地ノ農業改良ニ由ルト開墾地ノ擴張ニ由ルト問ハス、今後國內ノ増産ニ由テ需要ノ増加ニ應スルト云フ自給方針ヲ探ルトキハ、米價ノ變動カ益激烈トナルヲ免レナイコトハ既ニ述ヘタ如クデアツテ、米價調節策ノ二大目的ノ一タル米價安定ヲ犠牲ニ供セサルヲ得ナイ。假リニ米ノ專賣制度又ハ常平倉ノ制度ヲ設ケテ或程度マテ米價ノ激變ヲ防キ得ルトシテモ、本來激變ヲ生スヘキ事情ノ下ニ在ル米價ヲ此等ノ人爲手段ニ由テ安定のナラシメントスレハ非常ノ費用ヲ要スル。專賣又ハ常平倉制度ニ由リ米ノ配給ヲ適當ナラシムル爲メノ費用モ、廣キ意味ニ於テハ米ノ生産費ニ外ナラス、故ニ今後モ國民カ主ニ内地米ニ由テ生活セントスレハ非常ノ高價ヲ負擔セテハナラヌコトナリ、米價調節策ノ二大目的ノ他ノ一タル米價低廉ヲ犠牲トセテハナラ

又戰爭以來我國ニ於テモ諸外國ニ於ケルト同シク經濟上ノ自給自足カ高調セラルルニ至ツタガ、此ノ自給自足ナルモノニハ二様ノ意味カアル。甲ハ從來自國民ノ能力ノ低キ爲メ國內ニ生産シ得サリシ貨物ニ付キ、大ニ國民ノ能力ヲ高メテ之ヲ國內ニ生産セントスルコトヲアツテ、此ノ如キ自給自足ハ經濟ノ進歩ノ爲メニ必要テアルガ、乙ハ事業ノ性質ノ如何ヲ問ハス之ヲ國內ニ起サントスルモノテアル。食物ノ自給論ハ二者ノ何レニ屬ス可ヤト云フニ寧ロ乙ニ近イ。國民ノ大ナル部分カ農業ニ從事スルト云フコトハ決シテ國民ノ能力ヲ高メル所以テナイ。固ヨリ工業勞働ノ大ナル部分モ機械的ノモノテアルガ、概シテ云ハハ農業勞働ヨリモ高級ノモノテアル。只タ工業勞働ノ大ナル缺點ハ農業勞働ニ比シテ國民衛生上有害ヲアツテ、之ヲ防止スルコトハ非常ノ困難ナル。故ニ英國ニ於ケルカ如ク國民ノ大部分カ都會ニ住居シテ工業ニ從事スルコトハ決シテ理想的ノ生活狀態ト稱スルヲ得ナイガ、幸カ不幸カハ別問題トシテ我國ハ到底英國ノ如ク商工業ニ偏スルコトカ出來ナイノテアル。我國民ノ嗜好ニ最モ好ク適スル米ヲ最モ多ク生産スルハ内地農業ナル。今後モ我國民ノ米ニ對スル特種ノ嗜好カ一變セサル限りハ、其生産ノ主ナル部分ハ依然内地ニ行ハレ、從ツテ人口ノ大ナル部分、恐ラク其半分近クマテハ永ク農業ニ從事スルコトナルテアラウ。故ニ世界各地ニ生産セラルル小麥ノ何レヲ以テスルモ略ホ同様ノ麵麴ヲ造ツテ生活スルコトノ出來ル歐米人ト異リ、我國ハ國內ノ農業ノ過度ニ衰退スルヲ憂フルノ必要ハナイ。吾人ハ寧ロ外國ノ土地ヲ利用シテ吾人ノ嗜好ニ適スル食物ヲ得ルコトノ充分ニ行ハレ難キヲ憂ヘサルヲ得ナイ。

食物自給論ノ重要ナル根據ハ之ニ由テ國防ノ獨立ヲ完フスルコトテアル。併シ乍ラ今後工業ノ發達ニ由テ經濟ヲ維持セントスル我國ニ於テ、重要ノ工業原料ハ殆ント凡テ之ヲ外國ヨリ輸入セザハナラヌ。從來豊富ト見做サレタ石炭ノ如キモ、今後ハ大ニ外國ヨリ輸入セサレハ國內ノ需要ノ増加ニ應シ難イ形勢トナリツツアル。食物ニ至テハ今後モ其ノ主ナル部分ヲ自給スルノ已ムヲ得サル運命ニ立ツテ居ルコトハ前述ノ如クテアルガ、工業原料ニ至ツテハ如何ニシテモ自給ヲ許ルサナイ。然ルニ今日ノ戰爭ハ工業能力ノ戰爭テアルト云ハレル有様テアルカラ、工業原料ノ自給カ不能テアレハ國防ノ獨立ヲ完フスルヲ得ナイ。故ニ國民一般ノ生活ヲ困難ニシ、又商工業ノ發達ヲ妨クルモ、尙ホ食物自給主義ヲ強行セントスルコトハ、國防ノ獨立上ヨリ見テモ利益ヲ生シナイ。加之今後米價ノ激變ヲ寛和スル爲メニ實行スルヲ必要トスル所ノ常平倉制度ニ由リ、一時食物ノ補充ヲ爲スコトカ出來ルノミナラス、今後大ニ我國ノ食物ヲ得ントスル外國ト云ヘハ、後ニ論スルカ如ク支那及後印度諸國テアツテ、直接間接ニ我政治的軍事的ノ勢力ノ及ヒ易キ範圍テアリ、彼ノ英國カ遠ク南北米國ヤ露國ヤ印度ヨリ穀物ノ輸入スル場合トハ頗フル趣ヲ異ニスルノテアル。

二 外米利用ノ擴張

白人カ汎ク世界ニ小麥ノ生産ニ適スル土地ヲ開拓シテ第一ニ食物ヲ低廉ナラシメ、第二ニ各地收穫ノ豊凶ノ平均ニ由リ其價格ノ變動ヲ防キ得タルカ如ク、今後ノ我國モ汎ク外國ノ米產地ヲ利用

シテ我國民ノ食物供給區域タラシメネハナラヌ。東洋南洋ハ一體ニ米產米食ノ土地テアルガ、此内低廉ニ大量ノ米ヲ生産シ、今後モ永ク巨大ノ輸出能力ヲ有スルモノハ英領印度、暹羅及佛領印度即チ後印度ノ諸國テアツテ、其產米ハ俗ニ南京米ト稱スルモノテアル。後印度諸國カ米食國民ニ對シテ低廉ニ多量ノ米ヲ供給スルハ、恰モ加奈陀、露西亞、あるせん、ちんノ諸國カ白人ニ對シテ低廉ニ多量ノ小麥ヲ供給スルト相似テ居ル。後印度諸國ハ人口ノ割合ニ其面積カ廣ク、各地方ノ收穫ノ豐凶カ互ニ平均スルノ機會多キノミナラス、其產米ノ一大部分ヲ消費スル白人ハ、多種類ノ副食物中ノ一種トシテ之ヲ消費スルニ過キナイカラ、價格ノ高低ニ應ジテ消費ヲ屈伸スル程度カ強イ。故ニ南京米ハ價格ノ變動少ナキ特長ヲ有スル。只タ我國ヨリ見たル南京米ノ缺點ハ國民ノ嗜好ニ適スルノ度カ甚タ低イコトテアル。

朝鮮及支那ノ揚子江沿岸ノ或部分ニ於テハ我國民ノ嗜好ニ適スル米ヲ生産シ得ルノテアツテ、今後此等ノ地方ニ農業ノ改良ト耕地ノ擴張トヲ行フコトニ由リ、其產額ヲ増加スルノ餘地アルコトハ内地農業ノ増產ノ比テハナイ。世人ハ我紡績業ノ原料供給ニ付キ支那ノ棉花栽培ノ發達ニ大ナル望ヲ囑シツツアルガ、我國ノ食物供給ニ付キ今後中央支那ノ農業ヲ發達セシムルコトハ更ニ重要且ツ有望テアルト云ヘル。最モ朝鮮モ支那モ既ニ人口カ稠密テアルカラ如何ニ我國民ノ嗜好ニ適スル米ノ產額ヲ増加スルモ、同時ニ其地方ノ人口モ之ニ伴フテ増加シ、從ツテ其ノ獨立固有ノ輸出能力ヲ多大ナラシムルノ望ハナイ。現ニ支那ノ如キハ多年米ノ輸入國トナツテ居ル。只タ支那人モ朝鮮人モ米ニ對スル嗜好カ我國ト同様デナク、彼等ニ取ツテ南京米ハ左マテ不味ノモノテ

ナイノミナラス彼等ノ生活程度ハ我國民ヨリモ低イカラ、其産米ヲ高價ニ賣ツテ低廉ナル南京米ヲ輸入消費スルコトヲ利益トスル。從來支那ハ米ノ輸出禁止ヲ行ヒ、所謂防穀令ヲ布イテ居ルガ、假令ヘ防穀令カ存在セサルモ、尙ホ南京米ヲ補充のニ輸入シナクテハ、支那米ヲ多量ニ我國ニ輸出スルコトハ事實不能テアル。支那カ防穀令ヲ全廢スルコトハ秩序維持ノ上ヨリ困難テアルガ、若シモ同量又ハ一層多量ノ南京米ヲ輸入スルコトヲ條件トシテ支那米ノ輸出ヲ許ルスコトトスルナラハ、(例ヘハ南京米ヲ支那ニ輸入スルトキハ其輸入者ニ對シテ一定量ノ支那米輸出ノ許可證ヲ交付スルカ如キ方法ニ由リ)之ニ由テ支那ノ消費者ハ低廉ノ米ヲ得ルト同時ニ、支那ノ農民ハ其産米ヲ我國ニ高價ニ賣渡スコトニ由リ大ニ利益スルカラ、支那ノ基本的産業タル農業ノ發達ヲ來タスノ結果トナル。之ニ由テ見レハ我國民ノ嗜好ニ適スル米ヲ朝鮮及支那ヨリ大ニ輸入セントスレハ矢張り南京米ヲ利用セテハナラス。是レ予輩カ豫テヨリ此方法ヲ南京米ノ間接的又ハ迂廻の利用ト稱シ、我國ノ食物問題ノ解決上此種ノ利用方法ノ甚タ重要ナルコトヲ主張スル所以テアル。

世界市場ニ對シテ多大ノ輸出能力ヲ有スル米ハ今後モ南京米テアルカラ、我國ハ直接間接ニ之カ利用ヲ擴張シテ食物問題ヲ解決セネハナラス。從來ハ殆ント全ク直接ニ之ヲ我國ニ輸入スルニ止マリ、僅カニ朝鮮ニ少量ノ南京米ヲ輸入スルコトニ由リ朝鮮米ノ我國ニ對スル輸出量ヲ幾分カ増加スルニ過キナカツタガ、今後ハ更ニ間接的利用ヲ大ニ發達セシメテハナラス、只タ此方法ハ運賃ヤ取引ノ費用ヲ増加スルノ缺點カアルカラ、一面ニハ直接輸入ヲ更ニ有利ニ行フノ方法ヲモ講

セテハナラヌ。我國ハ多年南京米ヲ相當多量ニ輸入セルニ係ハラヌ、之カ利用ノ研究ハ甚タ幼稚デアルガ、若シ其利用ニ改良ヲ加フルトキハ、假令ヘ之ヲシテ内地米ト同様ノ使用價值ヲ生セシムルヲ得ナイトシテモ、今日ヨリハ遙カニ其價值ヲ高メルコトカ出來ル。從來ノ有様ヲ云ヘハ南京米ハ植物學上ニハ米テアツテモ、我國ノ經濟上ニハ米テナク寧ロ麥ヤ雜穀ニ近イ特種ノ代用食糧タルニ過キナイト云ヘル。既ニ屢論セシ如ク内地米ニ在テハ米價騰貴ノ際ニハ上等米ヨリモ下等米ノ需要カ増加スル爲メ、下等米ノ騰貴ノ割合カ上等米ノ夫ニ比シテ大トナルカラ、上下等米兩者ノ價ノ差カ小トナリ、米價下落ノ際ニハ其差カ大トナル。上等品ト下等品トノ間ニ此ノ如キ價格變動ノ曲線ヲ畫クコトハ米ニ限ラレタ現象テナク、他ノ一般商品ニモ同様ノ傾向カ存在スル然ルニ此點ニ關シテ内地米ト南京米トノ關係ヲ見ルニ、米價騰貴ノ際ニハ兩者ノ價格ノ差カ大トナリ其下落ノ際ニハ小トナルコトヲ常トスル。是レ南京米ハ内地米騰貴ノ際ニモ我國民ニ取ツテ飯米タルノ價值ヲ有スルコト少ナキト同時ニ、南京米ハ汎ク世界ニ販路ヲ有シ、且ツ其歐洲市場ノ需要ノ如キハ頗フル弾力性ヲ有スル故、我國カ米價下落ノ爲メ南京米ノ輸入ヲ減スルモ、之カ爲ニ南京米ノ下落スル割合ハ甚タ微小ナル爲メテアル。從來我米價騰貴ノ際ニ内外米價ノ差カ十圓近クニ達セサル間ハ南京米ノ消費カ別段ニ増加シナカツタガ、一般物價ノ二倍以上ニ騰貴セル今日ニ於テハ内地米カ騰貴シテ四十圓ヲ出テントスルニ至ルモ尙ホ二十圓前後ニテ販賣セラルル南京米ノ消費カ思ハシク増加セス、爲メニ外米管理令ノ運用上大ナル誤算ヲ生シ、暴動勃發ニ際シテ急ニ南京米ノ輸入不足ヲ感スルニ至ツタノテアル。此ノ如ク今日マテ南京米ハ我國民ニ取ツ

テ價值ノ甚ダ乏シキモノデアリ、從ツテ我國ノ食物問題ヲ解決スルノ效力モ少ナカツタノテアルガ此事タルヤ今後大ニ改良ノ餘地ヲ存スルコトト信スル。

此改良ニ付キ最初ニ予輩ハ南京米產地ノ農業ニ手ヲ下タシ、其品質ヲ日本向キニ改良スルコトヲ研究問題トシタノテアルガ、此種ノ改良タル氣候風土ノ關係上甚タ困難ナルノミナラス、特別ニ多クノ生産費ヲ投スレハ日本向キノ米ヲ生産シ得ルトスルモ、此ノ如キ米ハ日本ニ對シテハ相當高價ニ販賣スルコトヲ得ルガ、世界市場ニ於テハ需要者ノ嗜好ノ異レル爲メ特ニ之ヲ高價ニ賣ルヲ得ナイ。然ルニ我國ニ於テ從來豐作ノ年ニハ米價カ著シク下リ外米輸入ノ必要ハ非常ニ減少スルコトヲ常トスル故、我國ハ外米ニ對シテ安固ナル市場トナルヲ得ナイ。故ニ其產地ニ於テハ販路ノ危險アル日本向キノ特別米ヲ生産スルヨリモ、汎ク世界市場ニ需要セラルル普通ノ南京米ヲ生産スルコトヲ利益トスル、我國ノ人口カ更ニ大ニ増加シテ年々少クトモ數百萬石ノ南京米輸入ヲ見サルコトナキ狀態トナルニ至レハ或ハ其產地ニ於テ日本向キノ特別米ヲ生産スルコトモ出來ルテアラウガ、近キ將來ニ於テ此ノ如キ事ハ望マレナイ。南京米ト同性質ヲ有スル臺灣米ニ付テモ此點ハ同様テアル。故ニ吾人ハ今日ノ儘ノ南京米ヲシテ我國民ニ對シ大ナル價值ヲ生セシムルノ方法ヲ研究セテハナラヌ。

南京米カ我國民ニ甚タ不味トセラルル一原因ハ、我國民カ之ニ適當スル料理方法ニ通セス、内地米ト同様ニ之ヲ取扱ハントスル爲メテアルガ、今日ハ外米廉賣ノ爲メ國民一般カ稍其使用ニ慣レツシアル、故ニ次年度ニ於テモ引續キ大ニ外米ノ廉價輸入ヲ行ヒ、國民一般ヲシテ其食用ニ慣レ

シムルコトカ永久調節策トシテモ必要ナル、又南京米ヲシテ我國民ニ不味ナラシムル他ノ一原因ハ、南京米自身ノ性質ニ由ルヨリモ寧ロ之ヲ乾燥シ糶摺シ精白スルニ至ルマテノ調製方法カ我國民ノ需要ニ適シナイコトナル。故ニ其調製事業ニ我國人カ手ヲ下タシテ改良ヲ行フコトヲ要スルガ、糶ヲ我國ニ輸入シテ内地ニ調製事業ヲ行フコトハ運賃ノ負擔ヲ過大ナラシムルカラ其產地ニ於テ調製ノ改良ヲ行ハチハナラヌ。從來此調製事業ハ支那人及歐洲人ノ左右スル所トナツテ居ルガ我國ヨリ技術者ヲ供給シテ日本ニ輸出スル部分ヲ日本向キニ改良セシメルコトモ出來ナイテハナイ。此改良ニ由リ從來ヨリモ高價ニ之ヲ日本ニ輸出シ得ルコトナレハ、調製事業カ何人ノ所有ニ屬スルモ利益ナル。併シ充分ニ其調製ニ改良ヲ加ヘテ我國民ニ對スル南京米ノ使用價值ヲ高メントスレハ、成ルヘク其調製事業ノ所有ヲ我國人ノ手ニ收メルコトヲ利益トスル。歐洲戰爭以來我國ノ貿易商カ大ニ進歩シテ東洋南洋ノ產物ヲ歐米ニ供給シ、又ハ歐米ノ產物ヲ東南洋ニ供給スルカ如キ世界貿易ノ上ニ地歩ヲ占ムルニ至ツタガ、南京米ノ世界貿易ハ重要ナル事業ナルカラ、之ヲ我國人ノ手ニ收ムルコトハ直接間接ニ種々ノ利益ヲ生スル。南京米ヲ生産スル地域ハ廣大テアツテ、其ノ各地方ノ氣候地味モ頗フル區々テアリ、從ツテ其產米モ精密ニ検査スレハ著シキ差異カ存シテ、其中ニハ相當ニ日本人ノ嗜好ニ適スルモノモ決シテ少ナクナイト云フコトナル。果シテ然ラハ南京米ノ調製事業ト貿易トニ日本人カ手ヲ下タシ、其ノ大量ノ產額ノ中ヨリ日本ニ適スルモノヲ撰リ出シテ之ニ日本向キノ調製ヲ加フルトキハ、今日ノ南京米ヲ大ニ日本化スルコトナリ、少クトモ之ヲシテ内地ノ東北及北陸ノ下等米ト略ホ同程度ノモノタラシム

ルコトハ必シモ困難ナルマイ。珈琲ヲ國民的飲料トスル獨逸人ヤ、製茶ヲ國民的飲料トスル英露人ハ此等商品ニ關スル調製及貿易ノ實權ヲ握リ、世界各地ニ生産セラレタル雜多ノ珈琲ヤ製茶ヲ選別シ調合シテ非常ニ多種多樣ノ商品トシ、之ヲ自國及諸外國ノ特別需要ニ適スルモノト爲シツツアルガ、南京米ノ世界貿易ニ付テ我國人カ發展スルニ至レハ同様ノ成績ヲ擧ケ、少クトモ我國ノ特別需要ニ適スルカ如ク之ヲ選別調製シ、以テ我カ食物問題ノ解決ニ資スルコトトナルテアラウ。

南京米ノ貴重ナル長所ハ多大ノ輸出能力ヲ有スルコトト、其價格ノ頗フル安定的ナルコトトテアル。故ニ我國カ上述ノ如ク直接間接ニ之ヲ利用スルコトカ大ニ進歩スルニ從フテ、第一ニ我國ノ今後ノ米價騰貴ノ趨勢カ抑ヘラルルノミナラス、第二ニ其價格ノ暴騰暴落ノ弊害モ大ニ緩和セラレル。南京米ヲ利用シテ米價ノ調節ヲ圖ルト云ヘハ、世人ハ單ニ米價ノ暴騰ノ際ニ之ヲ抑制スルコトヲ意味スルカ如ク考ヘルノテアルガ、其實之カ利用ヲ大ニ擴張スレハ暴騰ト同シク暴落ヲモ抑ヘテ安定的ナラシメルコトカ出來ルノテアル。例ヘハ今後南京米ノ使用價值ヲ高ムルノ改良カ行ハレテ、其直接輸入カ平素ヨリ多量ニ行ハルルニ至レハ、一朝我カ米價カ暴落セントスル際ニ南京米ノ輸入カ激減シテ内地米ノ暴落カ緩和セラレル。何トナレハ我國カ米價下落ノ爲メ南京米ノ輸入ヲ減スルモ、之カ爲メニ南京米カ之ニ比例シテ下落セサルコトハ既ニ述ヘシ如クテアルカラ、我米價下落ノ際ニハ其下落ノ割合ヨリモ南京米ノ輸入減少ノ割合カ一層大トナルカラテアル又南京米ヲ多量ニ朝鮮支那ニ輸入スルコトニ由テ朝鮮米支那米ヲ多ク我國ニ輸入シ來ル間接利用

ノ發達セル場合ニ付テ見ルニ、若シ我國ノ米價カ下落スレハ朝鮮米ヤ支那米モ之ニ比例シテ下落スルコトナレハ、此等ノ米ハ依然我國ニ輸入セラレテ内地米價ヲ壓迫スルコトナルガ、實際ハ此場合ニモ別段ノ下落ヲ爲ササル南京米ノ朝鮮支那ニ輸入セラル割合カ激減スルカラ、朝鮮ヤ支那ニ於ケル米カ不足トナツテ其米價カ別段ニ下落セズ、從ツテ朝鮮米支那米ノ我國ニ對スル輸出モ大ニ減少スルコトナルカラ、我カ米價ノ下落モ緩和セラレルノテアル。元來朝鮮米ノ如キハ朝鮮自身ノ需要ヲ充タスノ外ハ我國ノ市場ニ供セラレ、他ニ汎キ販路ヲ有セサルモノテアルカラ、内地ノ米價ノ高低ニ比シテ朝鮮米モ高低シ、朝鮮米カ獨立ニ我米價ヲ調節スルノ力ハ殆ントナイノテアルガ、南京米ヲ朝鮮ニ輸入スルコトニ由テ大ニ朝鮮米ヲ我國ニ輸入スル場合、即チ朝鮮米ヲ通シテ我國カ南京米ヲ間接ニ利用スル場合ニハ、朝鮮米モ初メテ南京米ニ類スル調節力ヲ我米價ノ上ニ現ハシ得ルノテアル。此事ハ日本向キノ支那米ニ付テモ略ホ同様テアル。人口既ニ稠密ナル支那ヤ朝鮮カラ多量ノ米ヲ我國ニ輸入セントスレハ、南京米ヲ支那朝鮮ニ補充的ニ輸入スルコトカ實際ニ必要テアルノミナラス、此方法ニ由テ支那米朝鮮米ヲ我國ニ輸入シ來ルコトカ米價ノ變動ヲ緩和スルニモ有利テアル。是レ予輩カ今後ノ我食物問題ノ解決ニハ南京米ノ直間接ノ利用ヲ中心トシテ研究スルノ必要ナルコトヲ主張スル所以テアル。固ヨリ朝鮮米ヤ日本向キノ支那米ニ全然我カ米價ヲ調節スル獨立ノ力ナシト云フノテハナイ。例ヘハ本年我内地ノ收穫ハ稍悲觀セラルルニ反シ、朝鮮米ノ收穫ハ未曾有ノ豐作ヲ豫想セラレツツアルカ如キ其一例テアルガ、併シ其ノ獨立ノ調節力ハ甚ダ不充分テアルカラ、朝鮮米支那米ノ利用ハ常ニ南京米ノ利用ト

結ヒ付ケテ行フコトヲ必要トスル。

之ヲ要スルニ南京米ハ多大ノ輸出餘力ヲ存シ、且ツ其價格カ安定的テアルカラ、今後我國ノ米ノ需要ノ年々増加スルニ從ヒ、直接間接ニ南京米ノ利用ヲ擴張スルコトハ、我カ消費者ニ取ツテ大ナル利益テアルハ勿論、一般農民ニ取ツテモ利益テアル、其理由ヲ云ヘハ、第一ニ我國民ノ嗜好ニ最も好ク適合スル内地米ノ價ハ今後騰貴スルノ傾向ヲ有シ、外米ノ利用ハ其騰貴ヲ緩和シ又ハ停止スルニ止マツテ、到底之ヲ下落セシムルノ力ハナイカラ、外米利用ノ擴張ハ決シテ農民ノ利益ヲ積極的ニ毀損スルモノテナク、只タ農民カ不當ニ利益ヲ増スコトヲ防クニ止マル。第二ニ外米利用カ我カ米價ノ激變ヲ防クト云フコトハ農民ニ取ツテモ大ナル利益テアツテ、此利益ハ一面ニ農民カ不當ニ利益ヲ増加スルコトヲ防クノ點ト相殺シテ餘リアルモノテアル。從來我カ米價カ激烈ナル高低ヲ繰返シ、特ニ其高低カ必シモ收穫ノ豊凶ニ伴ハスシテ起ル爲メニ、本來安全ヲ特徴トスヘキ農業カ最も危險ナル事業トナリ、從ツテ經濟上ノ激變ニ堪ユルノ力乏シキ貧困ナル一般農民ハ非常ナル生活ノ不安ニ陷ツテ居ルノテアル。然ルニ南京米ノ利用ヲ擴張スレハ農民ハ此ノ如キ不安ノ地位ヨリ脫スルコトカ出來ルノテアルカラ、彼等モ亦南京米ノ利用ヲ大ニ歡迎スヘキテアル、地主階級ハ成ルヘク外米ヲ排斥シテ、今後益米價ヲ騰貴セシメ、以テ其地代地價ヲ増大スルコトヲ利益トスルテアラウガ、貧困ナル自作農民及小作農民即チ我國ニ於ケル眞ノ農業生産者ハ寧ロ收穫ノ豊凶ニ伴ハサルカ如キ米價ノ激變ヲ防止シテ其生活ヲ安固ナラシムルノ急ヲ感スル者テアル。加之米價ノ安定ヨリモ地代地價ノ増大ヲ利トスルハ少數ノ大地主テアツテ、多數

ノ中小地主ハ米價激變ノ爲メ非常ニ苦シム者アル。近來此種ノ地主階級カ漸次衰退シテ大地主カ獨リ優勢トナラントスルノ傾向ヲ示シツアルハ米價激變ニ原因スル所カ少ナクナイ。其理由ヲ云ヘハ我國米田ノ小作料ハ米ヲ以テ支拂ハレ、其額ハ收穫ノ豐凶ヲ問ハス一定シテ居ルカラ、地主ノ生活ヲ安固ナラシムル爲メニハ豐凶ニ係ハラヌ米價ノ一定不動ナルコトヲ利益トスル。然ルニ從來米價ノ騰落トモニ大ナル隋力ヲ有シテ二年三年ヲ繼續シ、又其騰落ノ幅サモ三割五割ノ大ニ達スルヲ常トスルガ、中等以下ノ多數地主ハ、下落續キノ時代ニ於テ其財力ニ大破綻ヲ生シ、他日騰貴續キノ時代ニ其財力ヲ恢復スルコトハ甚タ困難ノ有様テアルカラ、彼等モ米價ノ安定ヲ急務トスル者アル。固ヨリ之ヲ安定スルカ爲メニハ單ニ南京米ノ利用ヲ發達セシムルノミナラス、更ニ常平倉ノ制度ヲ必要トスルコトハ後ニ論スル如クアルガ、此常平倉ヲシテ成ルヘク低廉且ツ有效ニ働カシムル爲メニハ、根本ニ於テ外米利用ノ擴張ニ由リ米ノ需給ノ調節カ自然的ニ行ハレナクテハナラス、若シ此自然的調節カ存在シナカツタナラハ、如何ニ國家カ大ナル費用ヲ投シテ常平倉の設備ヲ爲スモ其效力ハ甚タ不完全トナツテ米ノ生産者消費者双方ノ生活ヲ安固ナラシムルヲ得ナイ。